

北海道洞爺湖サミットの 追い風に乗ろう！



稚内新エネルギー研究会
会長 長谷川 伸一

『レラヴィわっかない』
第三号の発刊にあたって

『レラヴィわっかない』を発行して三年が経過しました。例年よりも少し遅れましたが、今年もまたお届けできることをうれしく思います。発刊にあたり、たくさんのお客様の皆さんにお手伝いをいただきました。特に当研究会顧問である稚内北星学園大学の佐々木政憲学長はじめ研究会事務局の南野浩利君には写真撮影や取材編集に多くの時間を割いていただいたことに感謝とお礼を申し上げます。

『レラヴィわっかない』は、稚内新エネルギー研究会が設立された平成十七年三月、環境省に申請して採択された「平成のまほろば事業」（環境と経済の好循環のまちモデル事業・平成十七～十九年の三年間）の委託事業の中で制作、発刊が実現できたものです。それから早三年が経過し、まほろば事業もいよいよ完了を迎えることになりました。その節目にあたり研究会の今までの活動を振り返り、それを今年北海道で開催されるG8サミット「北海道洞爺湖サミット」においてどうアピールすべきかを考えてみたいと思います。

ほど低く、発電効率を考えるとさほど違いがないことがわかっています。

国のエネルギー政策では、現在の日本における太陽光発電量（約一五〇万キロワット）を数十年後には約三～四倍にしようと計画しています。その最初の実証試験として、過酷な条件下での実用性が実証されることで、今後の太陽光発電は日本中のいかなる場所においても実施可能となるわけですね。まさに逆転の発想と斬新なアイデアから生まれた私たちの提案が国をも納得させたのです。

稚内は新エネルギーの最先端！

すでに皆さんご存じのとおり、稚内には日本最大級の風力発電基地（宗谷岬ウィンドファーム出力五七、〇〇〇キロワット・国内第二位）があります。その壮大な風車群を見ようという観光、視察の方々が増えつつあります。さらに現在、道立宗谷ふれあい公園の隣りに建設中の大規模太陽光発電の実証試験施設にも多方面から多くの方々が訪れるようになりました。この施設は完成すると国内最大となり、風車とともに稚内の象徴的な存在になることでしょう。

特に太陽光発電については、「なぜ日本最北端の稚内で太陽光発電なのか？」と思われる方が多いに違いありません。積雪寒冷地であり、塩害、強風、電力系統の末端、さらには日射量不足など過酷で不利な条件ばかりです。しかし、だからこそ稚内で実証試験をする価値があるのです。

稚内が実証試験地に選定された背景には、気温が低いほど放電が緩和され効率が良いという電気の特徴があります。稚内は東京と比較して年平均気温が約十二℃

しかし「新エネルギー研究会」は、風力発電、太陽光発電という自然エネルギーを活用する施設をつくることだけを目的としているわけではありません。これらの自然エネルギーは、風の吹くまま気の向くまま、まさに風まかせのエネルギーでもあります。この気まぐれなエネルギーを私たちが使いたい時に使い、使わない時は何からの形でため込むことができないか？もしこの電気エネルギーを貯めることができればエネルギー供給システムが大きく変貌することになると考えています。